

のなぐ

病院と地域を
つなげる広報誌



院長メッセージ
Message

当センターでは、不整脈の中でも特に脳梗塞などの重い合併症につながる心房細動に対し、最新のパルスフィールドアブレーション治療を導入しました。安全性に優れたこの治療法をいち早く地域に届けるため、体制を整え、万全の準備を重ねてまいりました。今号ではその取り組みをご紹介します。

SPECIAL REPORT

リンクト
LINKED
plus+
病院を
知ろう

世界標準の
不整脈治療を。
循環器内科(不整脈治療)特集

CONTENTS

- 1 私たちの「治療」
- 2 私たちの「検査」
- 3 ここから一步!
- 4 地域医療事情
- 5 NEWS&TOPICS

SPECIAL REPORT

世界標準の 不整脈治療を。

循環器内科(不整脈治療)特集

最先端のパルスフィールド アブレーション治療に取り組む。

CHAPTER 01
次世代のアブレーション
治療をいち早く導入。

心房細動に対するカテテル治療は、今まさに転換期を迎えている。これまで主流だった(高周波アブレーション)に代わり、(パルスフィールドアブレーション)が登場したのである。その最先端治療が行われると聞き、岐阜県総合医療センターを訪ねた。カテテル室に集まっていたのは、循環器内科医、看護師、臨床工学技士たち。全身麻酔をかけ、循環器内科医が治療用のカテテルを太ももの付け根から血管を通じて心臓に挿入。熟練の臨床工学技士たちが心電図をリアルタイムで解析し、循環器内科医とともに目標とする心筋組織を探していく。「ここで間違いないな」。全員で確認すると、短時間の周期(パルス)で高電圧をかけ、問題の組織だけを選択的に細胞死へと導く。心臓の不規則な信号が確実に改善したことを確認し、治療は終了した。この新しい治療法のメリットはどこにあるのか。「何よりも安全性の向上です。従来のように高周波の熱を使わず電圧を用いるので、食道などの周囲臓器や神経にダメージを与えるリスクが大幅に低減しました。これにより、リスクの高い高齢患者さんにも手術を勧められるとともに、私たち術者のストレス軽減にも繋がっています」と話すのは、不整脈科部長の割田俊一郎である。

同センターがパルスフィールドアブレーション

治療を導入したのは2024年11月。日本で保険適用になった2024年9月から2カ月以内というスピード導入だった。この経緯について、割田は次のように語る。「パルスフィールドアブレーションは欧米ですでに標準的な治療法だったので、早くから論文などで情報収集し、一刻も早く地域の皆さんに提供したいと考えていました。保険適用後はトレーニングを受けたり、大学病院に症例見学に行ったりして、万全の準備を整えました。幸い、当科は2024年、不整脈治療の専門医が着任し、専門医2名プラス不整脈の専門医をめざす若手医師の3名体制で、マンパワーも十分にありません。同時に、臨床工学技士や看護師のトレーニングにも力を注ぎ、最先端の治療をチームで支える体制を構築してきたのです」。

COLUMN

●脳梗塞と関わりの深い、心房細動。脳と心臓の両方を診るために、脳神経外科と循環器内科の医師が定期的に集まり、(ブレインハートカンファレンス)を開催している。ここで、脳梗塞で入院した患者のなかに、心房細動が隠れていないかを確認し、速やかな治療へと繋がっている。

●組織横断的に複数の診療科が連携し、患者の疾患を多角的に診ることが出来るのは、岐阜県総合医療センターならではのメリットといえるだろう。



CHAPTER 02 地域のみなさんに、最先端の 治療を届ける使命。

割田たちが心房細動の治療に力を注ぐ背景には、高齢化に伴う高齢患者の増加がある。では、心房細動とはどのような病気なのか。「心房細動は、心臓の中にある心房が小刻みに震えて痙攣する疾患です。直接命に関わる病気ではないのですが、怖いのは心不全を起したり、心房内の血栓が血流に乗って脳に運ばれ、脳梗塞を引き起こすリスクが高まることです。脳梗塞になれば、命に関わることはもちろん、麻痺や言語障害の後遺症から生活の質が著しく下がることになります。ですから、心房細動が見つければ、できる限り早く治療することが重要です」と、割田は話す。そんな割田にとって、バルスフィールドアブレーションはまさに念願の導入だったという。「安全性がより高まったので、今まで手術を躊躇されてきた高齢の方も（頑張ってみようか）と書いていただけるようで、と

てもうれしく感じています」（割田）。

さらに2025年6月より、院内の環境も著しく向上した。本館地下に、カテーテルアブレーション治療専用室が新たに稼働し、週5日間体制で治療が可能となったのだ。「従来はアブレーション治療を希望されても、2〜3カ月、お待ちいただくのが常でした。でも、これからは待ち時間を大幅に短縮できますし、それだけ患者さんにご家族に喜んでいただけたと思います」と、割田は期待を寄せる。また、アブレーション以外でも最先端の技術が次々に導入されている。たとえばペースメーカーの治療では、カテーテルを用いて心臓内に本体を留置する（リードレスペースメーカー）などもいち早く提供してきた。「名古屋や東京の病院に行かないと、新しい治療を受けられない。そういうことがないように、これからも私たちは常に技術を高めて、世界標準の不整脈治療を提供していきます」。割田は力強く語った。

BACKSTAGE

〈動悸〉から始まる 病診連携の大切さ。

●心房細動をはじめとする不整脈の初期症状は、動悸、息切れ、めまい、胸の痛みなど。これらを最初に発見するのは、かかりつけ医であることが多い。そのため、岐阜県総合医療センターでは地域の診療所との連携に力を入れ、患者を紹介しやすい体制を整えているほか、希望される医師にはアブレーション治療の見学も受け入れている。

●こうした地道な病診連携の取り組みが、地域の患者の命を救うことに繋がっている。



「治療」

今回のテーマ

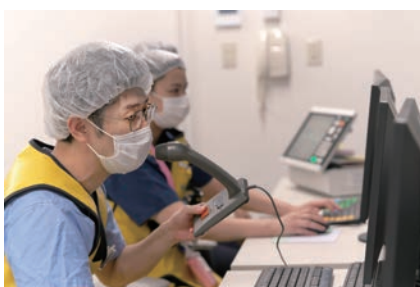
不整脈の治療(パルスフィールドアブレーション)



より安全な治療法の導入と地域連携で、
不整脈の早期発見から治療までサポート。

高齢化で増える不整脈。01 脳梗塞や心不全を防ぐために 早期発見が重要。

心房細動などの不整脈は、高齢化社会の進展とともに患者数が増え続けています。特に70歳以上では約3~5%が心房細動を抱えているとされ、動悸や息切れなどの自覚症状がなくても油断はできません。心房細動が怖いのは、その症状自体よりも脳梗塞や心不全といった命に関わる重大な合併症を引き起こすリスクにあります。実際、心房細動が原因で起こる脳梗塞は、一度発症すると半数近くが重度の後遺症を抱える可能性があるため、早期発見と早期治療が極めて重要になります。当センターでは脳神経外科など他科との緊密な連携のもと、患者さんの隠れた不整脈を早期に発見し、総合病院の強みを活かした横断的で包括的な診療体制を整えています。



従来より安全に02 治療可能なパルスフィールド アブレーション治療を開始。

当センターは、2024年11月、パルスフィールドアブレーション治療を県内でいち早く導入しました。この治療は、従来の高周波や冷凍によるアブレーション治療と異なり、非常に短時間の高電圧パルスで心臓の不整脈原因部位に加えることで、周囲の臓器に影響を与えず、心筋だけを選択的に治療できる画期的な技術です。これにより、食道や神経など周辺の重要な組織への影響を最小限に抑え、合併症のリスクを大幅に軽減しました。高齢者や他の持病をお持ちの方にも安心して治療を受けていただけるようになりました。また、2025年6月より専用の治療室を新設し、患者さんの治療待機期間の短縮にも力を入れています。

Message

循環器内科
不整脈科部長
割田 俊一郎



不整脈の早期治療と
安心の術後ケアを
地域医療機関とともに推進。

不整脈は、適切なタイミングで治療を開始することが非常に重要です。当センターでは、かかりつけ医の先生方と連携を図り、患者さん一人ひとりの症状や生活環境に合った最適な治療法を提案しています。また、術後の経過観察や薬剤管理についても地域の医療機関と協力しながら、患者さんが安心して日常生活を送れるよう支援しています。さらに専門医2名を軸に、専門研修を修了したスタッフの育成を進め、高度で安全な治療を提供しています。術後は定期的な外来診療を通じて健康状態をきめ細かく把握し、薬の見直しや生活改善のアドバイスを行っています。不整脈についてご不安がある患者さん、またかかりつけ医の先生方もぜひお気軽に当センターへご相談ください。



不整脈の予防①

規則正しい生活が心臓を守る。運動と睡眠で不整脈予防を。

「検査」

今回のテーマ

ホルター心電図検査



日常の中で起こる不整脈を逃さず発見する
ホルター心電図検査。

01 普段の生活の中で
心臓の細かな異変まで
しっかりと記録。

ホルター心電図検査とは、普段通りの生活を送りながら24時間から最長7日間継続的に心電図を記録し、不整脈の発生状況や症状の頻度、時間帯などを詳しく調べる検査方法です。通常行われる心電図検査は、10秒間程度という短時間記録ですので、日常生活の中で発生する不整脈を捉えることが難しい場合もあります。一方で、ホルター心電図は運動時や睡眠時、仕事や家事中といったさまざまなシーンで起こる微細な変化や症状も見逃さずに捉えることが可能になります。当センターでは、患者さんが日常生活に支障をきたさないよう、小型で軽量な最新の装置を採用していますので、検査期間中も安心していつも通りの生活をお送りいただけます。



02 2種類のホルター心電図検査。
経験豊富な臨床検査技師が
丁寧かつ正確に対応。

当センターでは、患者さんの症状やライフスタイルにきめ細かく対応できるよう、医師の指導のもと、24時間タイプと7日間タイプの2種類のホルター心電図検査を実施しています。24時間タイプは胸部5カ所に電極を装着し、自覚症状がある際には患者さん自身でイベントボタンを押して症状を記録することができます。7日間タイプは、防水設計により検査期間中のシャワーが可能で、検査後の返却も郵送で行うことができます。データに関しては、経験豊富な臨床検査技師が解析し、正確な結果を提供しています。緊急性の高い所見が認められた場合は、医師と連携して迅速な対応を行っています。

Message

臨床検査技師
認定心電検査技師
小路 由佳



患者さんが安心して検査に
臨めるように徹底した
サポート体制を整える。

ホルター心電図検査は、不整脈など心臓の異常を早期に発見し、適切な治療につなげる非常に重要な検査です。当センターでは、認定資格を持った専門性の高い臨床検査技師が、検査の準備から結果報告まで、一貫して対応しています。さらに、異常が見つかった際には直ちに医師と連携を図り、迅速な対応が可能です。患者さん一人ひとりの年齢や体調、生活環境、皮膚の状態などにも十分配慮した丁寧な説明と装着を心掛け、検査中の不安を軽減するためのきめ細かなフォローアップも実施しています。また、検査後のフォローアップや日常生活で気をつけるべきポイントなど、丁寧に分かりやすい説明を心掛けています。どんな小さな疑問や不安でも、ぜひお気軽にご相談ください。



不整脈の予防②

年一度の心電図検査で心臓チェック。早期発見が健康の基本。

未来を見つめて ここから一歩!



医療に込める情熱と責任。
互いに支え合い、
患者さんに安心を
届ける。

初期臨床研修医(2年目)
宮脇 潤
(みやわき じゅん)
岐阜県岐阜市出身
金沢医科大学医学部卒業



対談
初期臨床研修医
×
臨床検査技師

臨床検査技師(2年目)
高木 悠
(たかぎ ゆう)
岐阜県岐阜市出身
京都大学医学部
人間健康科学科卒業

お二人はなぜ 医療職を目指したのですか?

宮脇 子どもの頃は実は病院が苦手でしたが、小児科のクリニックに通っているうちに、その先生が患者さんに対してとても親身で、温かい人柄だったことに強く惹かれました。その先生のように患者さんを直接支える医師になりたいと思いました。姉が薬剤師だったので、医療職を身近に感じていたのも後押しになりました。

高木 私は高校時代、生物や化学が好きで、その知識を活かせる仕事として臨床検査技師を選びました。臨床検査技師は患者さんと直接接することは少ないですが、正確な検査結果を提供することで、診療を支える重要な役割を担っています。

宮脇 高木さんのお話で、臨床検査技師さんの責任の重さを再確認しました。普段、私たちは診療する側として結果だけを見ることが多いですが、その背景を知るとより感謝の気持ちが強くなりますね。

高木 ありがとうございます。私たちも普段は医師の皆さんがどのような判断をされているのかを直接見る機会が少ないた



患者さんが抱える不安を丁寧に受け止め、次に何をすべきかを明確に伝えることを心掛けています。

め、具体的な現場のお話を伺うと、責任感がさらに増します。

異なる職種として協力することについて、 どのように感じていますか?

宮脇 救急外来で患者さんに対応するとき、初期段階では診断が明確にできないケースもあります。そのようなときに臨床検査技師の方が迅速に正確な検査データを提供してくださるおかげで、次の処置や対応策を患者さんに的確に伝えることができます。連携は医療の質を高める上で非常に重要だと感じます。

高木 検査データが治療方針や診断の鍵となることも多いため、常に正確性とスピードの両立を意識して業務を行っています。職種間の連携と理解が深まることで、患者さんへ提供できる医療の質が高まっていると実感しています。

宮脇 私たちも患者さんへの対応がスムーズになります。やはり医療はチームで行うものだと、現場で日々実感しています。

高木 宮脇先生のお話を伺って、さらに自分たちの仕事がいかに重要なのかを改めて認識できました。お互いの役割を理解し合い、より一層協力を深めていければと思います。

患者さんと対面する機会が少ないですが、検査データが治療を支えていることを知ってもらえたら嬉しいです。



不整脈の予防③

動悸や息切れを感じたら要注意。早めの相談が安心の鍵。

知っておきたい

地域 医療 事情

今回のテーマ

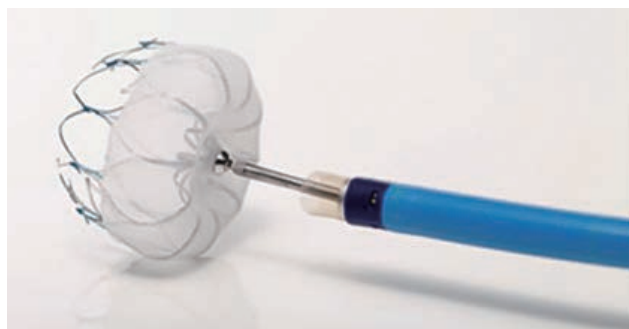
左心耳閉鎖術による
脳梗塞予防体制

岐阜県
総合医療
センター
では

抗凝固薬が使用困難な心房細動の患者さんに、
左心耳閉鎖術で安全な脳梗塞予防を実施しています。

✓ 血栓による脳梗塞を予防する左心耳閉鎖術の役割と特徴。

心房細動をお持ちの患者さんでは、心臓の左心耳という小さな袋状の部分に血栓が生じやすく、それが脳へと移動すると脳梗塞を引き起こすリスクがあります。従来は抗凝固薬を用いて血液をサラサラにすることで血栓を予防していましたが、この薬には出血のリスクが伴うため、特に高齢者や複数の疾患をお持ちの方にとっては服用が難しい場合があります。そのような患者さんに対し、左心耳を専用デバイスで閉じて血栓形成を防ぐ経皮的左心耳閉鎖術が開発され、近年では、この治療に用いるデバイスの種類も増えており、患者さんの状況に応じた最適な治療を選択できるようになっています。



✓ 短時間で負担が少ない手術と安心の術後フォローアップ。

左心耳閉鎖術は、体への負担が非常に少ない低侵襲のカテーテル手術です。手術時間は約1時間と短く、全身麻酔下で安全に行われ、入院期間も通常3泊4日と短期間で済むため、患者さんの身体的負担や精神的ストレスを大きく軽減できます。術後のフォロー体制も万全で、手術から45日目と1年後に経食道エコーまたはCT検査を実施し、閉鎖デバイスが適切に固定されているかを丁寧に確認します。当センターでは、これに加えて半年後にも中間チェックを設けることで、デバイスの安定性や患者さんの状態を継続的にモニタリングし、安心して治療を継続いただけるよう努めています。

高度な専門医療と総合病院の連携力で、
安全・安心・迅速な治療を実現しています。

岐阜県総合医療センターの循環器内科では、3名の日本循環器学会専門医が中心となり、左心耳閉鎖術をはじめとする高度で安全性の高い治療を提供しています。各医師は高度なカテーテル技術に加え、術中の経食道エコーによるナビゲーションにも精通しており、安全かつ正確な治療を実施しています。また、総合病院の利点を最大限に活かし、消化器内科や泌尿器科、脳神経内科をはじめ、各診療科との連携が迅速で円滑です。充実した救急医療体制により、緊急時にも迅速な対応が可能であり、患者さんの安全を常に最優先しています。

地域の医療機関との連携も積極的に行っており、抗凝固薬の処方判断に迷うケースや出血リスクが懸念される患者さんがいらっしゃる場合には、ぜひ当センターへご相談ください。患者さんの安心と安全を徹底的にサポートいたします。



循環器内科
医長
矢ヶ崎 裕人



不整脈の予防④

カフェインの過剰摂取や喫煙は不整脈の原因。心臓に優しい生活を。

カテーテルアブレーション専用室が完成～治療能力の向上と待機期間の短縮へ～

専用室の整備で診療体制を大幅強化

心房細動をはじめとする不整脈は、高齢化の進行に伴って年々増加しており、放置すれば脳梗塞や心不全といった重大な合併症を引き起こすリスクがあります。こうした背景のもと、岐阜県総合医療センターでは2025年6月、本館地下に〈カテーテルアブレーション治療専用室〉を新たに整備しました。不整脈治療の中心的手法であるカテーテルアブレーションの需要増に応えるため、診療体制の拡充を目的とした重要な取り組みです。

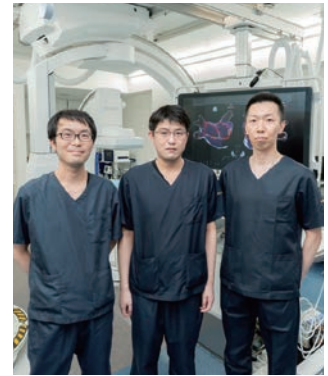
これまでアブレーション治療は、共用のカテーテル室を使用し、週2日(月・木)の対応に限られていました。しかし、症例の増加により対応可能数は限界に達し、外来診察から手術までに2～3カ月の待機期間が必要となるケースも少なくありませんでした。今回の専用室整備により、月曜から金曜までの週5日体制が可能となり、待機期間の短縮や1日あたりの手術件数の増加が期待されています。



高度な設備と専門チームで質の高い治療を提供

新設された専用室には、高度な医療機器や映像装置に加え、被ばくを軽減する設備も導入。医療従事者の安全性向上や作業効率にも配慮した設計となっています。さらに、2024年から当センターで導入している、非熱型の新たな治療技術〈パルスフィールドアブレーション(PFA)〉にも対応した構造で、従来以上に安全性と治療効果の高い医療を提供できる体制が整いました。

また、人的体制の強化も進めています。不整脈専門医2名に加え、若手医師も加わり、柔軟に対応できるオペレーターチームが確立されつつあります。これにより、医師の外来日に左右されずに手術を実施することや、患者さんの予定に合わせた日程調整も可能になりました。今後は、地域のかかりつけ医の先生方からのご紹介にも迅速に対応し、早期発見・早期治療の実現を通じて、患者さんの生活の質(QOL)の向上と脳梗塞のリスク低減を図ってまいります。「安心して相談できる不整脈治療体制」の構築に向けて、当センターは今後も一層尽力してまいります。



岐阜県総合医療センター WEBマガジン

地域の皆さんや連携機関の皆さんと「岐阜県総合医療センター」を情報で繋ぐ、広報誌連動型コミュニケーションサイト。ぜひご覧ください。

つなぐ

こちらから

